

『おおきな木(通級指導教室)』だより

豊中市立高川小学校令和5年(2023年)9月7日 No.2

感覚を統合しながら成長する

触覚・平衡感覚・固有感覚は、生来的に働いているといわれ、これら3つの感覚を基礎感覚というそうです。この3つにつまづきがあると、

触覚につまづきがあると・・・

- ・何かにぶつかったり、けがをしたりしても痛がらずに平気。つめや鉛筆をかむ。
- ・人にさわられるといや。帽子、マスク、靴下を嫌がる。

平衡感覚につまづきがあると・・・

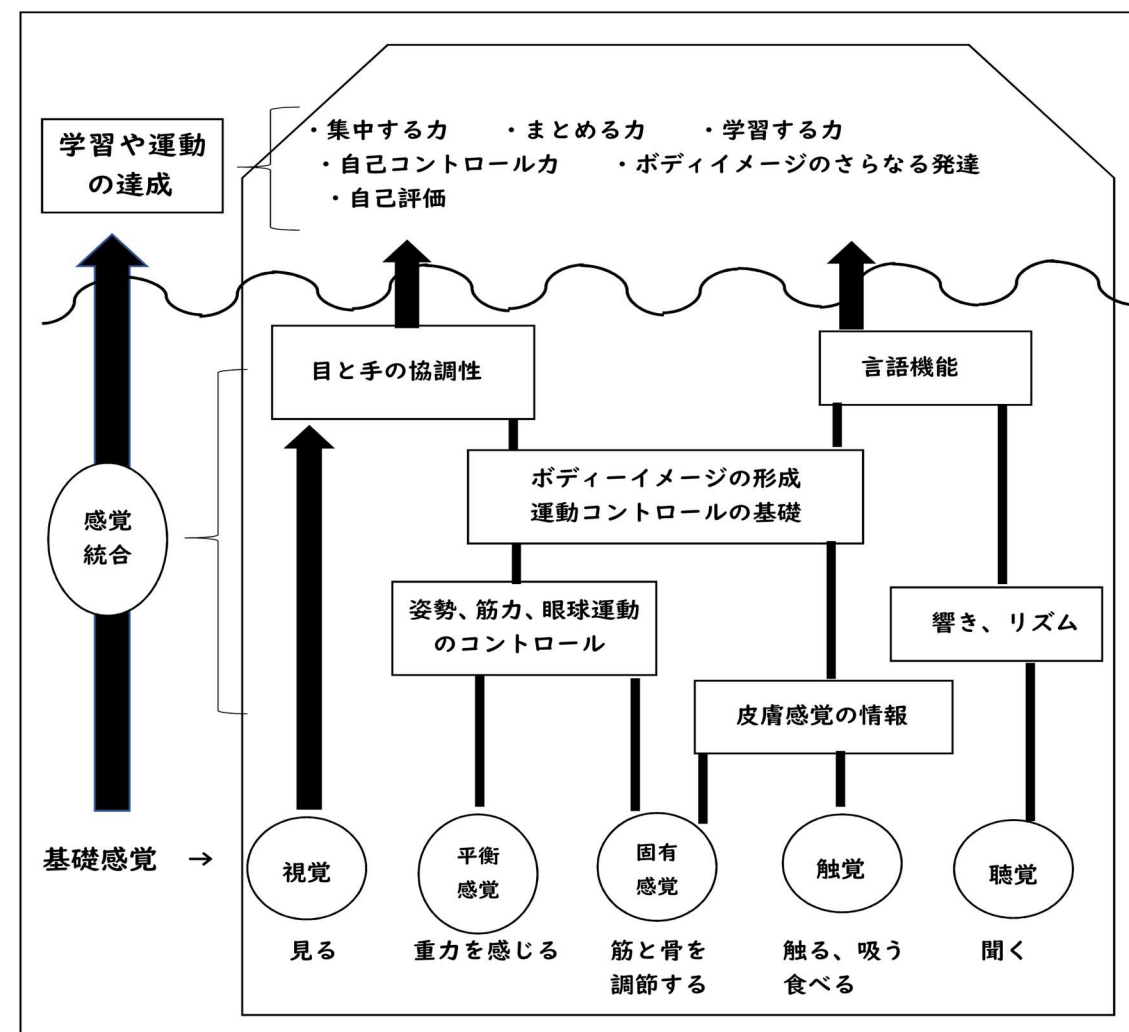
- ・姿勢をまっすぐ保てない。板書が苦手、ノートがとれない。
- ・文字などの読み飛ばしが多い。

固有感覚につまづきがあると・・・

- ・細かな動作が苦手。
- ・力加減が調節できず動作が乱暴。
- ・文字がうまく書けない。

このように、普段わたしたちが学校で目にする子どもたちの姿は冰山の一角であり、その土台となっているのが、基礎感覚に視覚・聴覚を加えた5つの感覚だそうです。土台となっている感覚が不安定であると、感情や学習態度、生活態度にまで影響をおよぼしてしまうことがあるそうです。冰山の一角に出てくる子どもたちのつまづきを「土台」から見直していこうというのが“感覚統合”という考え方です。

子どもたちの「気になる行動」を、感覚統合の視点で見えていくと、それぞれにちゃんと理由があるということです。“どんなつまづきが隠れているのか”を考え、学校や家庭でどんなサポートが必要かを探っていき、情報共有できればいいと思います。



☆家庭でもできる感覚統合遊び☆

- ・背中クイズ…子どもの背中に三角や円などの形をかきます。子どもは、その形を当てます。(触覚が敏感な子には、「今からかくよ」と声をかけたり、最初は広い面積でしっかり触れるようにしたりします。)
- ・的あてチャレンジ…床に、ロープやテープなどで円をかき、的をつくれます。1～2メートルはなれた場所から、お手玉や丸めたハンカチなどを投げ、的の中に入れます。投げるものや的の大きさを変えたり、的を遠ざけたりしてみてもいいですね。投げるものや目標に応じて投げ方を変える経験を重ねることで、ルールを守って行動することの土台づくりになります。

引用参考文献：川上康則『発達の気になる子の学校・家庭で楽しくできる感覚統合あそび』2015年、ナツメ社。

(豊中市立高川小学校 通級指導教室担当：小林 文絵)